広報ふなばし写真版
MARCH 3月
vol.12
隔月年6回発行

特集 伸びつづける50万市民の足
船橋の鉄道

まちかどニュース

まちなかの文化財 木遣りと梯子乗り

PHOTO ふなばし

広報ふなばし

特集 伸びつづける50万市民の足 船橋の鉄道

3月3日午前9時30分、歴史の1ページを飾るテープカットを行なう（左から）船木美和千葉鉄道管理局営業部長、土居岡夫日本鉄道建設公団東京支社長、大橋和夫船橋市長、田久保尚徴船橋市議会議長、宮川房夫国鉄東京第一工事局次長の皆さん

豊かな歴史を誇る 国鉄総武線

千葉県に最初の鉄道が開業したのは、明治27年で、7月にまず市川―佐倉間、12月に本所～市川間が誕生しました。これが総武線で、この総武鉄道本所（現在の錦糸町）―佐倉間（50.7キロメートル）の開通は、県内鉄道建設の大きな引き金になったばかりでなく、幹線としてその基幹部の役割りをはたしてきました。そしてこれ以降敷設された鉄道は、この鉄道の延長、あるいは支線という形で整備されていきました。県内で最初の複線化もこの総武鉄道で、国有化される直前の明治40年8月に両国橋―千葉間が完成しています。

船橋の"西の玄関口"西船橋駅には4本の鉄道が集まっている

船橋駅で快速電車に乗り込む通勤の人達

市立船橋高校付近を走る下り電車

船橋駅の乗降客は1日30万人でこれは県下で一番

総武・常磐方面を結ぶ重要な路線 国鉄武蔵野線

昭和53年に新松戸―西船橋間（14.3キロメートル）が開業し、総武線、営団地下鉄東西線に連絡しました。新松戸―西船橋間は工事終了まで小金線と呼ばれましたが、開業時から呼称が武蔵野線で統一されました。この武蔵野線は、松戸から船橋に至る鉄道空白地域を縦断する鉄道であると同時に従来とかく疎遠であった総武・常磐方面を短絡する路線として重要な役割りを果たしています。

武蔵野線の開通で常磐方面も近くなった

行田団地をバックに走る武蔵野線

船橋市は非常に鉄道の発達している町です。国鉄総武線をはじめ、武蔵野線、営団地下鉄東西線、京成線、新京成線、東武野田線、北総開発鉄道、住宅・都市整備公団鉄道が、そしてこの3月3日には待望の国鉄京葉線も開通しました。さらに、昭和68年には東葉高速鉄道（西船橋―勝田台間）も開通する予定で、将来、市内には何んと10本もの鉄道が走ることになります。これだけ沢山の鉄道が走っている町は全国でも少なく、東京・大阪・名古屋などの大都市と肩を並べます。

船橋市の人口は、現在約50万8千人ですが、その約4分の3は他から転入してきた人達とその子供達です。昭和30年代中頃から、市の内陸部を走る新京成線沿線に、前原団地、高根台団地、習志野台団地などの大規模な住宅団地が相次いで建設され、周辺の宅地開発も進むと、急激な人口の増加が始まりました。昭和37年から48年頃までは一年間に人口が平均して2万人前後も増えつづけ、全国にも名だたる人口急増都市として知られるようになりました。

一方、こうした人口増加とともにこれらの人々の通勤・通学の足を賄う各鉄道の整備事業もどんどん進められました。国鉄総武線快速電車運行に伴う複々線化と連絡立体化（昭和47年）、国鉄武蔵野線（昭和53年10月）と営団地下鉄東西線（昭和44年3月）の開通、新京成電鉄の全線複線化完成（昭和50年）、東武野田線の一部高架化（昭和57年）、北総鉄道の開通（昭和54年3月）などの事業が次々と行なわれました。そして今、市では長年の懸案になっていた京成線の連続立体化事業、そして東葉高速鉄道建設事業に全力をあげて取り組んでいます。

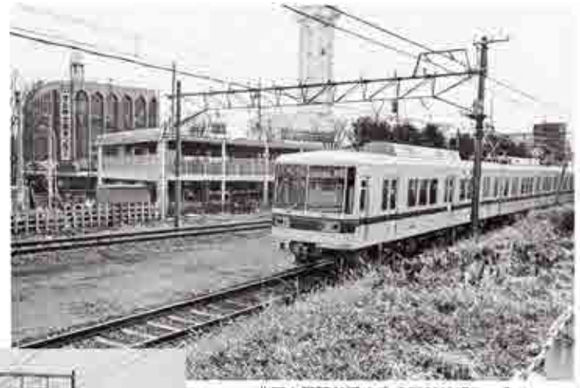
西船橋駅発千葉みなと駅行きの一番電車の運転士さんに関係者の子供達から花束が贈呈された

西船橋―千葉みなと間が21分で結ばれている

話題の新線 国鉄京葉線が開業

去る3月3日、京葉臨海地区住民の大きな期待を乗せた、国鉄京葉線（西船橋―千葉みなと駅間・18.4キロメートル）が開業しました。当日、午前9時25分からは、その記念の日を祝う式典が、"船橋の西の玄関口"西船橋駅に多数の関係者を集め華やかに開催されました。大橋和夫市長をはじめ関係者によるテープカットの後、くす玉が割られるとあざやかなマリンブルーの祝賀列車が沢山の拍手に送られ、静かに10番線ホームをすべり出しました。京葉線は当初、京浜・京葉両工業地帯を結ぶ貨物線として計画されていましたが、船橋市など沿線各市が関係機関に働きかけ、総武線のラッシュ緩和の切り札として、その旅客化を実現させたものです。なお、今回の開業は暫定開業で全線（東京―蘇我駅）開通は63年春の見込みです。

開業を祝うくす玉



北習志野駅付近を走る"8800型"という新車両が鉄道ファンの人気の的

三咲駅に到着した松戸行きの上り電車

多くの沿線住民期待の足
新京成電鉄

鉄道連隊の演習線の軌道敷跡を、昭和21年3月京成電鉄がその使用を認可され、総武線と常磐線を結ぶ新線（26.2キロメートル）を敷設する計画がたてられた。昭和21年8月新線の免許が交付され、同年10月京成の子会社として新京成電鉄(株)が発足。昭和22年1月、津田沼方面からその工事が始められました。昭和22年12月新津田沼駅―薬園台間(2.5キロメートル)が開業。昭和23年滝不動、24年には初富までが開業。昭和30年初富―松戸間が開業し、単線ながら全区間が開通。昭和50年には全線（新津田沼―京成津田沼間を除く）が複線化されました。

滝不動駅付近を走る新京成電車

国道16号線の下をぬけて小室駅に到着する下り電車

千葉ニュータウンと都心を結ぶ
北総開発鉄道

北総開発鉄道は、千葉ニュータウンと都心を結ぶ新線として当初京成電鉄により計画されたものです。昭和48年4月京成の関連会社として、北総開発鉄道が設立され、同年10月路線免許が交付されました。そして第一期工事が翌49年12月に小室―北初富間7.9キロメートルにわたって行なわれました。昭和54年3月この区間が開業し、とりあえず新京成電鉄（松戸方向、常磐線接続）に乗入れするルートとなりました。小室―松戸間は31分で、鉄道開業にあわせて入居開始となった千葉ニュータウンの足として活躍しています。現在第二期事業としての新鎌ヶ谷駅―高砂駅間の工事が進行中です。なお、59年3月には住宅・都市整備公団鉄道（小室―千葉ニュータウン中央駅間）が開業しています。

船橋市の最北端にある小室駅

東葉高速鉄道の工事がはじまった新京成北習志野駅前広場

期待高まる話題の新線
東葉高速鉄道

西船橋と八千代市勝田台間を結ぶ東葉高速鉄道は昭和59年7月、運輸大臣より日本鉄道建設公団に対して工事実施計画の指示が出され、西船橋―八千代間を第一期工事（66年開業予定）、八千代―勝田台間を第二期工事（68年開業予定）としてその事業が既にスタートしています。市内の新駅は、東海神、飯山満、北習志野の3駅、八千代市には西八千代、八千代、勝田台の3駅が予定されています。この完成で地下鉄東西線との相互直通運転も予定されており、その活躍が期待されます。

西船橋駅を出て一気に都心へと向かう東西線上り電車

西船橋駅に停車する津田沼行きの下り電車

地下鉄と連絡する多彩な足
営団地下鉄東西線

昭和44年3月に東陽町―西船橋間（15.0キロメートル）が開業。この東西線は昭和41年中野で国鉄中央線に直通乗入れし、さらに44年4月国鉄総武線に乗入れ（西船橋―津田沼間6.1キロメートル）することになり千葉県から都心へ向う新たな直通ルートが開かれました。また、この東西線の開通によって、明治期の総武鉄道の開通以来、鉄道ネットワーク上の空白的存在だった浦安・行徳の地域が新たな脚光をあびることになりました。

大神宮下駅のこのあたりも連絡立体化事業で生まれかわる

東中山駅付近を走る成田空港駅発上野行きのスカイライナー

午前8時の京成船橋駅。国鉄に乗りかえで船橋駅に向かう通勤の人々この頃がラッシュのピーク

幅広い守備範囲を誇る
京成電鉄

京成電鉄の前身である京成電気軌道が、帝釈人車軌道（明治33年開業、現常磐線の金町駅と柴又を結んでいた）を大正元年に買収し、同年押上―江戸川間、曲金(現在の京成高砂)―柴又間が開業。2年後には柴又―金町間の改良工事が完成。続いて市川真間（大正3年）、京成中山(4年)、京成船橋（大正5年）までと順次開業。その後京成船橋―京成千葉(10年)、京成津田沼―京成成田間の開業は昭和5年。都心ルートを求めて計画された青砥―上野間は、昭和6年日暮里まで、つづいて8年に上野までが開業しました。なお社名を現在のものに変更したのは昭和20年のことです。成田空港駅と都心を結ぶスカイライナーが53年から運行されています。

県北西部の貴重な路線
東武鉄道野田線

東武鉄道野田線は、県営軽便鉄道として明治44年野田―柏間（14.3キロメートル）で開業したものが母体となっています。大正10年北総鉄道(株)が設立され、大正12年にはこの県営鉄道が払下げられ柏―船橋間が開業。昭和5年には社名が総武鉄道と改称され。柏―大宮間に直通電車が走るようになりました。しかし、船橋―大宮間の直通運転は柏駅での連結が悪く昭和23年までもちこされました。なお、東京外郭環状線として成長したこの総武鉄道は経営上の都合で、昭和19年、大手の東武鉄道と合併。県内区間を東武鉄道野田線とその名称が改められました。

新船橋駅を発車する柏行きの上り電車

若鳶会の梯子乗りの妙技

まちかどの文化財

⑪木遣りと梯子乗り

［市指定無形文化財］

先日、船橋鳶（とび）職組合長の三口義一（みくち・よしかず）さんと話す機会を得た。三口さんの話は、私どもサラリーマン社会の人間には幾分と珍しく感じられるものが多く、それで面白くお話をすることができた。中で「木遣（きやり）を教えるっていっても楽譜なんて無いわけでしてね。一人の先生が十人に教えますとね、十人十色で十一の木遣りが出来ますんですよ。その十人がまた十人ずつ教えますと、百十一の木遣りになるってわけで、そこが木遣りのいいとこです」という話が特に印象に残った。

正月、消防出初式で今年も同組合若鳶会の梯子（はしご）乗りと木遣り歌が多くの市民の前で披露された。無風快晴の睦月の空高く演じられ、また、朗々と美声が響き渡り、爽快そのもの。年頭を飾るにまことにふさわしいものだった。江戸の火消しの面影をよくとどめ、船橋と江戸との関係を知る上で貴重ということで、梯子乗り、木遣り歌とも、市の無形文化財に指定されている。

場内に朗々と美声が響き渡る

見物に来た市民も乗せて、出航準備

船橋港で進水式

春のスズキ漁が本格的にはじまる前の２月23日、船橋港で巻き網漁船の進水式が行われました。近ごろ、あまり見られなくなった巻き網漁船の進水式に、漁業関係者をはじめアマチュアカメラマンや見物客など、およそ400人の人出で賑わいました。式は、船橋大神宮の神主によって豊漁と海上安全の祈願がなされ、神事に続いて、港に集まった大勢の見物客にお祝いの紅白のもちや菓子、おひねりなどがまかれ、華やかに行われました。

春の潮風に大漁旗を
なびかせて

海上安全と大漁を祈願

まちかどニュース

船橋港を静かに出航してゆくイーグル号

海から船橋を眺めてみよう!!

いま、船橋港を見学しながら、実際に帆を上げて体験帆走をする"あせいっぺい海洋教室"が開かれています。これは、船橋海洋スポーツ協会（市内湊町３）が千葉海上保安部の協力を得て、おもに中学生以上の市民を対象に、船に乗るときの心得から船上でのマナー、海上安全への心掛けなどを研修目的にして、毎月１回（日曜日）行っているものです。

陽春のこの時季、世界の海につながる船橋港に出て、海から船橋を眺めてみてはいかがでしょうか。

詳しくは、船橋海洋スポーツ協会（☎35−2690）に問合せください。

みんなで「ばか面踊り」を!!

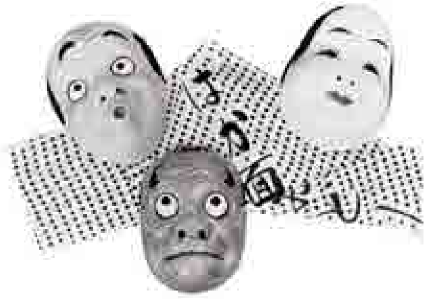
おかめやひょっとこの面をつけて「ばか面踊り」を踊ってみませんか。

「ばか面踊り」は、市内漁師町（現湊町地域）で生まれ、船橋市を代表する民俗芸能として、市民まつりなどでひろく親しまれています。

そこで、この「ばか面踊り」を市内外にひろく普及・宣伝し、また踊りを永く保存するために、船橋市観光協会は、おこり面、おかめ面、ひょっとこ面の３種類を製作しました。お面と豆しぼりの１セットの値段は1500円、お面のみの値段は1250円。

ことしの夏まつりには、みんなで「ばか面」をつけてフィーバーしてみてはいかがでしょうか。

申込み・問合せ　船橋市観光協会☎36−2473



ハシゴ車による高所からの救助訓練を行なうレスキュー隊

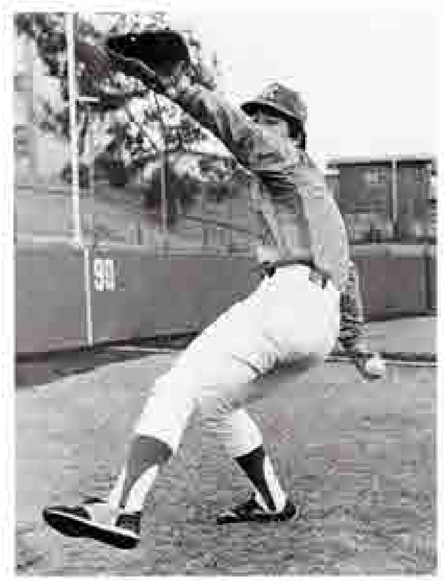
船橋市が国際消防救助隊を編成

４月１日に自治省消防庁が創設する国際消防救助隊に、船橋市消防局の72人の特別救助工作隊の中から２チーム14人のメンバーが選ばれました。

国際消防救助隊は、昨年11月に起きたコロンビアの火山噴火による大惨事をきっかけに、海外で大災害が発生したときに派遣され、現地で救援活動を行うレスキュー隊です。これは自治省消防庁が１月10日に全国の人口30万以上の自治体に協力要請したことに、船橋市がいち早く応じたものです。なお、４月11日には国際消防救助隊発足後はじめての合同訓練が行われます。

国際消防救助隊に選ばれたメンバーの皆さん

１月28日梅原消防局長より辞令の交付


都市対抗で153キロの速球を
記録した豪快なピッチング

苦しい練習も大学時代から
自分で工夫してやってきた

三田中学校時代は長島さんにあこがれてサードを守って
市民大会で優勝したこともあるという

郷土船橋の星"長富浩志（ながとみひろし）"

長富浩志（ながとみひろし）（24歳）という名前をご存じですか。プロ野球ファンならすでによくご存知の右の剛速球投手！昨年のプロ野球ドラフト会議で１位指名されＮＴＴ関東から広島カープに入団。即戦力投手として早くも今年のセントラルリーグ新人王の呼び声が高い。このように大いに期待されている大物投手が、生まれも育ちも生粋の"船橋っ子"（三田中学校出身）。「少年の頃からプロ野球選手に憧れていた」という長富選手が、今年の新人王となり、"郷土の星"として光り輝いてほしいものです。写真は昨年の12月、市内飯山満町にあるＮＴＴグランドでの練習風景です。

２級河川の長津川治水工事は、国の「河川災害復旧助成事業」として目下着々と進められています。「ここら辺は、昔から谷津田といって、腰までつかるほどの深んぼだった」（土地の古老）という長津川の改修工事は、雨が降ると水が出る難工事ですが、10年計画を59年から63年までの５ヵ年計画に短縮変更して、現在急ピッチで工事が進んでいます。

スポーツで健康ふなばし
こんにちは…

編集後記

「犬も歩けば…」ではありませんが、「20分も歩けば必ずどこかの駅にでられる」と言われるほど数の多い船橋の鉄道。今回は京葉線の開業にあわせ、市内をくまなく走るこの沢山の電車を追いかけました。「おじさん、ここの方がアングルいいよ！」鉄道ファンの豆カメラマン達との交流も楽しい撮影行でした。京葉線開業の取材は、西船橋駅発午前５時８分の一番電車から。皆さも何んのその、すでに早朝から大勢の鉄道ファンがホームにつめかけて、話題の新線開業を祝福していました。本文の各鉄道の概要説明は「千葉県の鉄道」（千葉県企画部交通計画課発行）によりました。まちかどニュースの長富選手には是非すばらしい活躍を期待したいものです。この写真は市内市場在住の渡辺行雄さん提供によるものです。編集部では皆さんの写真の投稿もお待ちしています。「こんな写真が撮れたんですけど…」面白い写真がありましたら是非編集部までご一報ください。もうじき桜の季節ですね。今年は海老川堤にジョギングロードが完成してから初めての桜が咲きます。「望遠レンズで、いや広角の方が…」今からその構想に余念のない逐カメラマン達です。

PHOTOふなばし 第12号　発行　船橋市　昭和61年３月　編集　船橋市広報公聴課　印刷　株総合印刷新報社